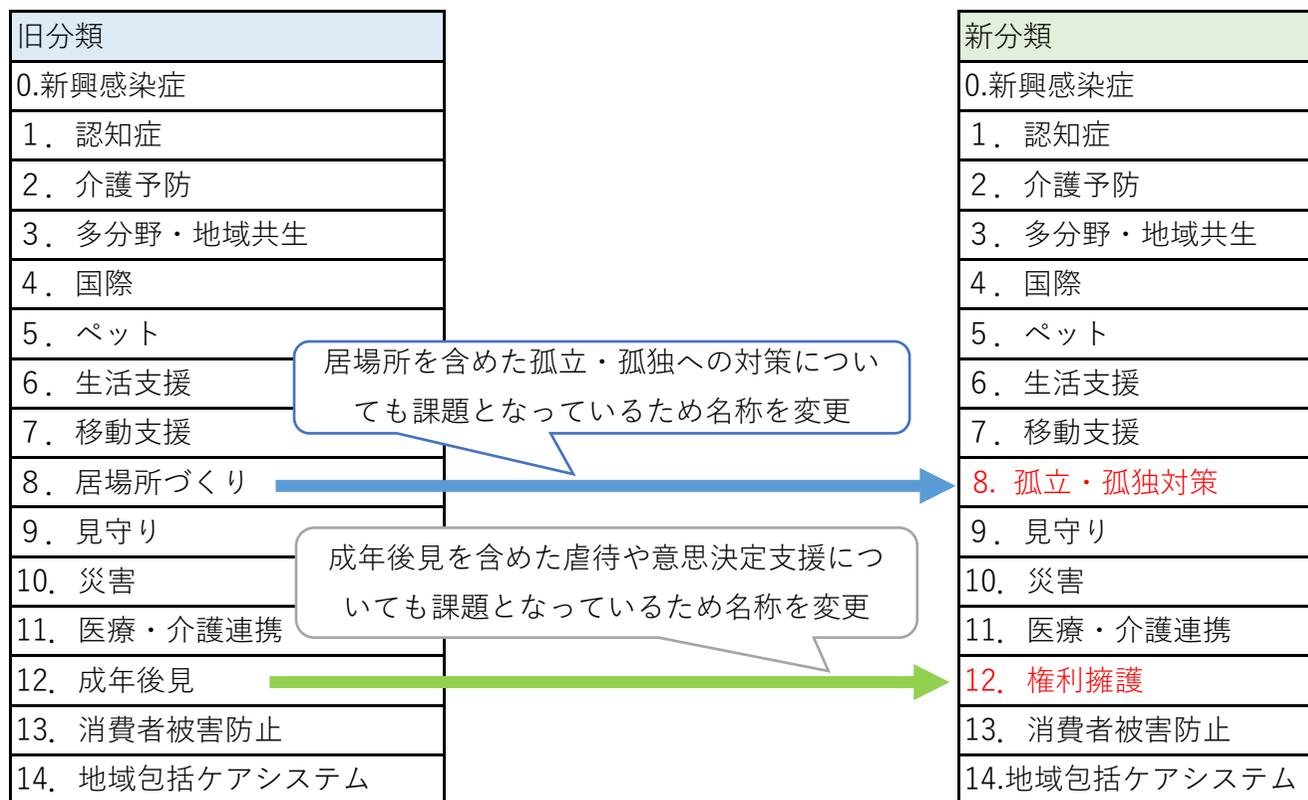


地域レベルの会議における主な議論のまとめ (地域の課題および市の課題)

- ・ (1)地域で起きている問題と課題は、0～14のテーマに分類し、地域個別ケア会議と地域包括ケア推進会議で話し合われた内容をそれぞれ記載した。
- ・ (2)地域での対応方針は、地域包括ケア推進会議で挙げられたものを内容に応じて、「実態把握」、「普及啓発」、「連携強化」、「取組検討」の4つに分け、さらに取組状況として「すでに取り組んでいる」ものについては、下線を引いて記載した。
- ・ (3)市レベルの課題は地域個別ケア会議と地域包括ケア推進会議で挙げられたものをそれぞれ記載した。

松戸市地域ケア会議におけるテーマの名称変更



テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた地域での対応方針	(3)市レベルの課題		推進会議で話し合われた地区
	個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議		個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議	
0.新興感染症	<p>●コロナ禍における居場所</p> <p>○高齢者がオンラインに慣れる勉強会等、支援体制が必要(個39)</p> <p>○コロナ禍のため、サロン(難病の会など)や顔なじみの集まりが開催できていない(自7)</p> <p>○コロナ禍のため、地域のサロン(自分と同じ趣味の人が集まるつどい等)の再開ができていない(自8)</p> <p>○コロナ禍においてショートステイ先がない等自宅での生活継続支援が不足している(個44)</p> <p>●ワクチン接種や感染予防について</p> <p>○団体の感染対策に関し、専門職が出張し助言する仕組みが必要。(個39)</p> <p>○ワクチン接種に関する情報共有(個48)</p> <p>●コロナ罹患時の体制</p> <p>○コロナにより自宅療養や濃厚接触者となった要介護高齢者が、在宅医療・介護サービスを利用できる体制を整える必要がある(個38)</p>	<p>●新しい生活様式に合わせた活動の実施</p> <p>○オンラインの普及に差がある。</p> <p>○自宅で大人数が集まったの担当者会議が出来ない。</p> <p>○コロナ禍で病院での面会が制限されており、退院前カンファレンス等が行えず本人の状況確認が困難。</p> <p>●オンラインの問題点</p> <p>○オンライン体操教室では様子が見えづらく、加減がわからなかったり、急な体調不良等への対応も難しい。人数が増えれば増えるほど把握しづらくなる。</p>	連携強化	<p>○オンライン(ZOOM・LINE)で担当者会議実施。自宅、ケアマネ、包括、病院、各サービス事業者等をつなぐ。</p>	<p>○ワクチン接種会場に行けない方やワクチン接種を知らない方への対応や包括やケアマネの対応指標の作成</p>	新松戸 六実
			取組検討	<p>○ZOOMで体操教室実施。講師と参加者、マンションの集会所ともつないだ。家族も一緒に参加することも出来た。</p> <p>○オンラインで担当シェア会議を実施</p> <p>○コロナ禍でも安全に活動継続できていた団体の取組み内容を調査</p>	<p>○コロナで自宅療養や濃厚接触者となった要介護高齢者の支援体制を整える。</p> <p>○オンラインに慣れていない高齢者がオンラインで活動できるようになるための勉強会やタブレットの貸出・wifiの整備等、様々なサポート体制を整える必要がある。</p>	

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた地域での対応方針	(3)市レベルの課題		推進会議で話し合われた地区
	個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議		個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議	
1.認知症	<p>●認知症の普及啓発</p> <p>○認知症の人への理解と見守り支援の充実。(個6・35・37)</p> <p>○専門機関にも認知症サポーター養成講座受講勸奨(個49)</p> <p>○認知症の方の近隣トラブルへの対処(個51・個21)</p> <p>○認知症の方への身体拘束についての普及が必要(個59)</p> <p>●認知症バリアフリーを阻害するハード面での因子</p> <p>○同じ形状の団地では認知症の人に限らず、棟番号が見えにくい(個17)</p> <p>●認知症の人の居場所や支援体制</p> <p>○認知症の人の通える場、本人の興味・関心に合致した活動の場(個6・8・27・54)</p> <p>○ボランティアの育成(個6)</p> <p>○複合課題を抱える世帯を地域で早期発見・介入のための見守り体制(個12・22・60)</p> <p>○ケアマネだけで対処しきれない場合の多様な相談先の不足(個21)</p> <p>○介護される側の悩みの共有場所があると良い(個57)</p> <p>○緊急で利用できるサービスの不足(個60)</p> <p>●介護者への支援</p> <p>○介護者のレスパイト時間や場所が地域の中にあるとよい(個8)</p>		普及啓発	<p>○コロナ禍の影響があり認知症の本人や家族が地域と繋がれる場・集える場が少ない。</p> <p>○公的機関への認知症対応の普及啓発(認知症サポーター養成講座の推進)</p> <p>○相談窓口の周知</p>		
			連携強化	<p>○難聴や認知症など社会参加が困難な独居高齢者が増えているため、色々な人が参加しやすくなる地域作りが必要。</p> <p>○ケアマネで対応困難な場合の相談しやすい体制づくり</p>		
			取組検討	<p>○認知症の方の理解促進、ボランティアの育成推進</p> <p>○認知症の方と共に暮らししていく社会について普及啓発</p>		

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた地域での対応方針	(3)市レベルの課題		推進会議で話し合われた地区
	個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議		個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議	
2.介護予防	<p>●介護予防に資する啓発および社会資源の不足</p> <p>○介護者の集いや介護教室の開催・啓発が必要。(個1)</p> <p>○孤食は栄養バランスが偏りやすい。栄養指導など専門的なアドバイスが受けられる仕組みが必要(個53・自14)</p> <p>○視覚に不安のある方の集まりやオンラインでの集まりがない(個24)</p> <p>○高齢者のセルフケアを促す工夫(可視化ができる表など)(自3)</p> <p>○一人の利用者、世帯に対し、多職種で多面的に支援できる環境作りが必要。(自1)</p> <p>○義歯調整せず食生活が偏る高齢者への介入(自1・自2)</p> <p>○コロナ禍での外出機会の減少(自12)</p>	<p>●フレイル予防</p> <p>フレイル予防における社会参加の場がない、地域交流がしにくい</p>	普及啓発	<p>○会話が口腔機能低下予防にも役立つことを普及啓発する。</p>	<p>○義歯調整の重要性についての普及啓発</p> <p>○独居になった方が利用できる社会資源をまとめた冊子の配布</p>	矢切
			取組検討	<p>○移動支援やボランティアの拡充を図る。</p> <p>○集いの場、行事に関してはオンラインでも出来るよう方法を検討する。包括の事業の周知、民生委員からの早期相談。</p> <p>○見守りについては電話やインターフォン越しで行い、安心して利用できる活動の場を作る。</p> <p>○体操教室等の実施施設を拡充させ、広く参加できるようにする</p>	<p>○栄養指導などの専門的なアドバイスが受けられる仕組みが必要。</p> <p>○共食機会の創出による社会参加のきっかけ作りが必要。</p> <p>○視覚障害のある方の社会参加の場</p>	

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた地域での対応方針	(3)市レベルの課題		推進会議で話し合われた地区		
	個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議		個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議			
3.多分野・地域共生	<p>●障害や認知症等に関する普及啓発</p> <p>○8050の世帯への地域での早期発見・介入、見守り検討(個12)</p> <p>○アルコール依存症に関する普及啓発、相談機関、予防等の周知不足(個13)</p> <p>○生活困窮や医療等の救済の情報が伝わり難い。(個15)</p> <p>○手話通訳の団体はいくつかあるが、必要な場面で対応出来る方がまだ少ない。</p> <p>○松戸市手話言語条例が周知が不十分(個28)</p> <p>○当事者の会・家族会などの周知の不足(自18)</p> <p>●多問題を抱える世帯への支援の不足</p> <p>○障害と認知症の対応が困難(個45)</p> <p>○複数の疾患（精神疾患と認知症）の対応(個46)</p> <p>○複合的な課題を抱える世帯に対し繋がりを保ち、何かあった時には動ける体制を構築(個7・33・52・自17)</p> <p>○独居高齢者の情報が把握できていない(個56)</p> <p>○身寄りのない一人暮らしへの見守り体制の構築(個43)</p> <p>○複合的な課題を抱える世帯が増えているが、地域との交流が希薄。(個29・58)</p> <p>○介護保険制度の按分によりサービスが受けられない(自18)</p>	<p>●多問題を抱える世帯への支援の不足</p> <p>○孤立・孤独から経済的困窮、全身状態の悪化に陥る人がいる</p> <p>○複合課題を抱え、支援拒否がある場合に、地域の人を含め介入が困難な事例がある</p> <p>○複合課題を抱えた世帯に地域が気づかない、気づいていても相談に繋がらない</p> <p>○複合課題を抱えた世帯の支援について関係機関の連携が円滑に図れない</p>	実態把握	○近隣住民からの問題を抱える世帯の情報(困りごとなど)を収集する。	○独居高齢者の情報を把握するための体制づくり	<p>本庁 馬橋 馬橋西 常盤平団地 五香松飛台 小金原</p>		
			普及啓発	○認知症や障がい者の見守りポイントなどを学び、一回の見守りでまると見守りができるような仕組みを検討	○相談先を明確にする。		○相談窓口の周知 ○障害者に対する理解促進 ○アルコール依存症に関する普及啓発 ○手話言語条例の啓発	○行政関係窓口各所における8050世帯が抱える課題への意識強化。多分野の相談窓口覚知 ○セルフネグレクトに対する啓発活動
			連携強化	○見守りを望まない人に対する支援について引き続き検討する。	○地域ケア会議等を通じて各関係機関が集まる機会をつくり関係強化に努める。		○地域での連携した見守りとゴミ屋敷への対応 ○障害制度と介護制度の支援者同士の交流とそれぞれの役割について再度の勉強会	○「地域共生」についてのよこにつながる体制づくり ○複合的な課題を扱う際の支援者の役割分担の明確化
		取組検討	○地域住民は「新聞が溜まる」「電気が点かない」等の見守りを継続する。	○施設等は高齢者や障がい者の雇用や登用を推進する。	○独居高齢者・高齢者夫婦のみ世帯等の地域の見守り体制の構築			

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた 地域での対応方針	(3)市レベルの課題		推進会議で話し合 われた地区
	個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議		個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議	
5.ペット	○高齢によりペットの飼育が困難 になっており、支援者がいない・ ペットの存在を理由にサービスに 繋がらない(個26)	○高齢者は身体・認知機能の低下 によりペットの飼育が困難になる ことが多い。 ○ペットの存在を理由にサービス に繋がらない。	実 態 把 握	○ケアできる家族や近所のつながり 等、月1回でも世話してくれる人の情報 を収集する。		馬橋
			普 及 啓 発	○ペット好きな人とそうではない人を お互いに理解する普及啓発を行う。 ○飼い主の意識向上をめざす。	○高齢者のペット飼育員についての 普及啓発	
			連 携 強 化	○ペット預かりボランティアとの協力 体制を作る。		
			取 組 検 討	○気心知れている者同士で 動物好きの ご近所マッチングの仕組みを考える。	○一時的預かりの仕組みづくり ○ペットを飼う事についての啓発	
6.生活支援	○配偶者に先立たれると家事の出 来ない本人の生活が立ち行かない (個25)		普 及 啓 発			
			連 携 強 化			
			取 組 検 討	○家事が出来ない単身高齢者を支 える地域資源		

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた 地域での対応方針	(3)市レベルの課題		推進会議で話し合 われた地区
	個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議		個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議	
7.移動支援	○免許返納後の生活に支障が生じる。(自4・5・自11)	○高齢者の移動支援をどのように行うか	実 態 把 握	○時間帯によりバス本数の増加やバス停の位置等についての意見を集める。 ○車いす利用者のバス停利用状況を把握する。	○コミュニティバスの利用目的についてのアンケート調査の実施	東部 馬橋
			普 及 啓 発		○シルバーカーの使用要件等についてのケアマネへの普及	
			取 組 検 討	○公共交通機関の割引申請を町会で一括実施	○移動支援のインフォーマルサービスの充実	
8.孤立・孤独対策	<p>●様々な属性・ニーズに応じた居場所の不足</p> <p>○コロナ禍により集いが開催できていない(自7・8・9)</p> <p>○視覚に不安のある方の集まりやオンラインでの集まりがない(個24)</p> <p>○気軽に立ち寄れる地域の居場所が少ない(個26)</p> <p>○共に食事を食べるという内容の社会資源が少ない(個27)</p> <p>○認知症や難聴などコミュニケーションが取り難く、社会参加が困難な独居高齢者が増えている(個54)</p> <p>○高齢の本人と未婚の子の世帯へのアプローチの困難さ(個47)</p> <p>○配偶者を亡くした方のピアカウンセリングの場の不足(自13・14)</p> <p>○介護離職に追い込まれる(個36)</p>	<p>○生きがいを持てる居場所づくり</p> <p>○担い手(地域活動者)確保に係る課題</p> <p>○高齢者のみならず誰でも集える居場所づくり</p>	普 及 啓 発		○日頃から地域での見守り活動を行い、相手に認識される存在になる。	常盤平団地 馬橋
			連 携 強 化	○専門職同士の横のつながりと、非専門職との関わりを作っていく。	○専門職と専門職以外の方がチームとして関わっていく際の行政サイドからの支援	
			取 組 検 討	○地域の活動を知るイベントを開催。継続への支援をする。 ○各種教室の参加者に「出来ること探し」のアプローチをして支えられる側の、支え手側への変換、マッチングする仕組みを検討する。	○コミュニケーションがとりにくい(認知症、視覚・聴覚障害等)方の居場所・通いの場が必要 ○介護離職を予防する取り組み	

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた 地域での対応方針	(3)市レベルの課題		推進会議で話し合 われた地区
	個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議		個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議	
9.見守り	<p>●見守り体制の不足</p> <p>○地域のつながりや地域のインフォーマルな関係機関を含めた連携。(個10)</p> <p>○独居高齢者の地域での見守り(個10)</p> <p>○子が国外に在住しておりすぐに対応できないため、地域での見守り構築が必要(個45)</p>	<p>○地域の見守りを担う人はだれか</p> <p>○回覧をまわさない世帯の見守りについて</p> <p>○手厚い支援を行いたいが、担い手が不足している</p>	実態把握	○回覧については町会に確認		馬橋西
			連携強化	○雨戸の開け閉めや洗濯物が干してあるかなど、最低限の日常生活の活動の有無の把握		
			普及啓発	○高齢者がよく利用しているヤクルトや新聞配達の仕事所への窓口の周知 ○活動の周知を図るとともに、地域の <u>中</u> でも担い手を発掘していく。	○セルフネグレクトに対する啓発をし、見守りの目を醸成する	

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた地域での対応方針	(3)市レベルの課題		推進会議で話し合われた地区	
	個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議		個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議		
10.災害	○避難行動要支援者名簿登録の活用促進。(個3)	○災害時に地域とサービス事業所が連携して対応が出来るが良い ○課題を抱える世帯の災害時の支援方法 ○浸水想定区域があり、自力で避難できない高齢者がいる	実態把握	○必要物資についてリスト化する。			明第2東 常盤平団地 明第1 明2西
			普及啓発	○避難訓練に事業所や、地域住民が参加し、有事の際の避難経路を確保する ○平時より、BCPについてケアマネと支援方法を共有			
			連携強化	○事業所間の関係構築 ○安否確認について日ごろから検討しておく ○避難行動要支援者名簿の役員間での共有。			
			取組検討	○要支援者リストの活用や登録を促す ○様々な機関やお店に要支援者登録用紙を置いてもらう。 ○イベント等で顔なじみ、声掛けしやすい関係を作る ○常盤平地区社協の「あんしん登録カード」を有効活用 ○防災訓練を実施する ○平時での「防災相談」で自助・共助に取り組む ○町会の避難訓練に要支援・要介護がどうすれば参加できるを検討する。		○民生委員の見守り活動や市の避難行動要支援者避難支援体制、家具転倒防止器具等取付費助成事業等の情報発信の強化 ○浸水リスクの低い他地域にある避難所への広域避難のための移送方法（バスなど）	

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた地域での対応方針	(3)市レベルの課題		推進会議で話し合われた地区
	個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議		個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議	
11.医療・介護連携	<p>●連携のためのシステム作り</p> <p>○自立支援に向けて、チームで意思疎通が円滑に図れるようなICTシステム等の普及(個2)</p> <p>●支援者の知識・経験や制度・体制等の不足</p> <p>○本人が望む生活を継続する上で、生活の見極めが難しい(個4)</p> <p>○疾病や障害による不安定さがある世帯への見守り(個5)</p> <p>○医療と介護の連携強化。(個9)</p> <p>○独居高齢者が在宅での療養、看取り希望時の医療と介護の連携(個11)</p> <p>○複数の診療科において治療を進める為の医療連携(個50)</p> <p>○複数の疾患（精神疾患と認知症）の対応(個46)</p> <p>○共依存関係が長期化し医療やサービスに繋がらない世帯への介入困難。(個3)</p> <p>○独居高齢者の情報が把握できていない。(個56)</p>		実態把握		○独居高齢者の実態把握	
			連携強化		○認知症の独居高齢者の支援において、ケアマネだけではなく、医療や地域が連携しやすい体制作り	
			取組検討		○オンライン活用のためのタブレット等の貸出 ○WiFi等、外でも使える環境のインフラ化。	

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた地域での対応方針	(3)市レベルの課題		推進会議で話し合われた地区
	個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議		個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議	
12.権利擁護	<p>◆意思決定支援に関する普及啓発が必要</p> <p>○意思決定支援を目的としたエンディングノートや人生会議についての普及啓発が必要(個19.20.23.40)</p> <p>○後見人や支援者の研修する機会の不足(個61)</p>	<p>○生存中(入院中や申立て中)、死亡後の金銭管理について支援者が法に触れずに金銭管理できる方法や資源、備えが必要</p> <p>○高齢者の意思決定支援や身辺整理についての取組みが進んでいない</p> <p>○虐待防止の知識の普及不足</p>	<p>普及啓発</p> <p>○各種制度・エンディングノート・ACP・自筆遺言等の備えのセミナー実施・作成支援</p> <p>○多職種・地域との連携</p> <p>○エンディングノートや既存の助成制度の啓発活動</p>	<p>○意思決定支援を目的としたエンディングノートや人生会議についての普及啓発が必要</p>	<p>○身寄りのない方が備えを準備するための啓発活動</p>	常盤平 五香松飛台 明2東
			<p>取組検討</p> <p>○虐待防止について普及啓発をする際、受け入れやすい言葉に置き換えて伝達する</p> <p>○虐待防止について市が貸出している普及啓発DVDを積極的に活用する</p>	<p>○ある程度の判断能力があるが生活に支障があり金銭管理ができない高齢者に対し法に触れずに金銭管理できる仕組みづくり</p> <p>○リビングウィル・死後事務等の事業登録の仕組み作り</p> <p>○急変時等事前準備のフォーマット(エンディングノート、ACP等)の作成</p> <p>○亡くなった後の負債等整理のための仕組みづくり</p>	<p>○既存制度(日常生活自立支援事業、後見制度)を利用しやすくする</p> <p>○法定相続人の調査委託</p> <p>○後見制度申立て・あんしん生活支援事業等の費用助成</p> <p>○日常生活自立支援事業に遺言書作成もバックにする</p> <p>○身寄りのない人に関する情報(ACP、避難行動要支援者等)を管理し共有できるシステム作り。その情報を収集する機関、様式が必要</p>	
13.消費者被害	<p>○消費者被害への対策や予防の周知、早期発見等について(個14)</p> <p>○独居高齢者を狙った悪徳業者の訪問や電話がある。(個55)</p>	<p>○独居高齢者等が消費者被害にあわないようにする</p>	<p>普及啓発</p> <p>○悪徳業者の具体的な手口等の事例を集めて周知・啓発する。</p> <p>○訪問時や運動教室など地域住民の集まりの際、消費者被害の注意喚起を行う。</p>	<p>○消費者被害への対策</p> <p>○悪徳商法の業者等に介入されないような体制づくり、地域づくり</p>	<p>○市役所、警察、包括で連携して情報発信、注意喚起する。</p>	六実六高台
			<p>連携強化</p> <p>○町会や近所の人と交流し、情報共有する</p>			
			<p>取組検討</p> <p>○防犯カメラや照明、猛犬注意のシールなど予防策を検討する</p>		<p>○防犯カメラや照明の設置等、防犯に対する費用の助成。</p>	